青森民医連医師医学生課発行　–医師を目指す高校生のための医系情報マガジン-　Vol.101　10・11月合併号

Road to Doctor

みなさん、こんにちは！ずいぶんと寒くなりましたね。風邪が流行っているようですが、みなさんいかがお過ごしでしょうか？これからインフルエンザも流行ってきますので、体調管理には気をつけましょう。さて今回は第61回全国医学生ゼミナールin弘前を特集します。また、医学部不正入試について一緒に考えたいと思います。引き続き、医学生や医師に対する質問も募集していますので、ハガキにてお寄せください。また、住所が変わった、今後購読を希望しないという方も、お手数ですが同封のハガキにてお知らせくださるようお願いいたします。 Medi-Wing最新号（健生病院・松本拓真先生登場）も同封しましたので、受験勉強の合間に読んでくれると嬉しいです。

8/10～12開催
第61回全国医学生ゼミナールin弘前

前号紹介した医ゼミin弘前。8月に開催された第61回全国医学生ゼミナールに参加した、弘前大学医学科1年生のたっちゅさんから、報告を頂きました！

～タイムスケジュール～

- ○ 記念講演『科学と社会の関わり方
  ～医療者として 現代社会をどう捉え、どう行動するか～』
  名古屋大学・総合研究大学院大学名誉教授　池内了
- ○ シンポジウム『医療者の働き方を考える
  ～医療者と国民の健康が守られる社会を目指して～』
  医師ユニオン代表　植山直人
  中原利郎先生の過労死認定を支援する会 中原のり子
  やまと診療所院長　安井佑
- ○学生発表（メイン企画・平和企画）
- ○分科会（29ヵ所）　○SGD（3日間）　○交流会（3日間）

今年の医ゼミは、メインテーマを「私たちはどう働くか～医療者と国民の健康が守られる社会～」と題し、8月10日から8月12日にかけて、３日間の日程で開催されました。

学生発表は、「医ゼミスト」達の学びの集大成である学生レポートをもとに行われ、参加者に多くの気付きと学びをもたらし、SGD(スモールグループディスカッション)の盛況に大きく貢献しました。メインレポートでは、医療者を取り巻く労働環境の厳しさを再確認したのち、その背景の考察、さらに現在行われている、労働問題に対する実践例を挙げ、医療者と国民が手を取り合うことの重要性を説きました。平和レポートでは、青森県独自の問題を切り口に、平和学という学問を用いて暴力の構造を検証し、それを克服する方法を、実際に文化的暴力を脱した事例から考察しました。

１日目の講演会では、池内了先生をお招きし、科学と社会の関わり方についてお話をいただきました。人々の信用のもとに成り立つ、真の「専門職」である我々、医療者が持つべきは、極度な功利主義を否定する、医療ないし生命体の限界を多面的に捉える、戦争に断固反対する、などといった高い倫理観が必要であると気付かされました。

２日目のシンポジウムでは、立場の異なるお三方のお話を聞き、医療者と国民という双方の健康のために、何が必要かについて、考えを深めました。植山直人先生からは、勤務医の労働実態と医系学生が持つべき審美眼について、中原のり子先生からは、ご自身の夫を過労自殺で亡くされた体験、また過労死や過労自殺根絶への強い思いを、安井佑先生からは、やまと診療所独自の職種である「在宅医療PA」を導入するに至った経緯と、患者に対する真摯な思いを、それぞれお聞かせ願いました。「医療者と国民の健康」という一つのテーマに対し、三つの異なる視点から述べられた解釈は、次々と我々に多面的な見方を付与したように思います。

医ゼミの場は、マジョリティを優遇する場でも、マイノリティを擁護する場でもありません。あらゆる考えが受容される場です。一人一人が興味のある分野を見つけ、仲間を作り、学びにつなげていく登竜門だと解釈しています。また様々な立場の、全国から集まった熱意ある学生から刺激を受け、自分を奮起させることのできる場です。医ゼミよ、永遠なれ。

弘前大学医学部医学科1年　たっちゅ

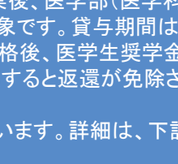
全国医学生ゼミナールfacebookより

医ゼミは、正式名称を「全国医学生ゼミナール」と言います。全国各地の医学生、医療系大学・短大・専門学校などで学ぶ医療に関わる様々な分野の学生が、毎年8月に集まり、学び交流します。今年は約200人が弘前に集まりました。学生主催の医系学術企画では日本最大規模です。“医療”というテーマのもと、みんなで協力して1つの自主ゼミをつくりあげる、それが「医ゼミ」です。

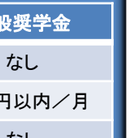
東京医科大学の不正入試問題について考えてみよう

8月6日に公表された東京医科大学内部調査委員会報告では、同大学の入試において、女性や多浪生を全合格者の３割程度に抑える目的で、受験者の得点を一律に減点する等の得点操作が10年以上にわたって行われていたことを公表しました。

このことは、明らかに入試における女性や多浪生への差別であり、法の下の平等を定めた憲法14条、全ての人がその能力に応じてひとしく教育を受ける権利があることを定めた憲法26条違反です。大学入試における公平性が著しく損なわれており、その公平性を信じて入試にのぞんだ多くの受験生の人生を変え、医学・医療で人びとに貢献したいという受験生の良心を踏みにじる行為です。こうしたことが東京医大において長年続いてきたのはどうしてでしょうか？

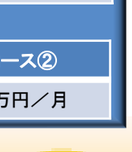


背景に、深刻な医師労働の実態があります。勤務医の深刻な医師労働が続く根本的な原因は、診療科や地域による偏在にとどまらない医師数の絶対的不足があります。その解決として、一定の政策変更として医学科の定員増を行ってきましたが、第一線の現場で医師労働のあり方がほとんど変わっていないからです。また、国は医師の充足がされない状態で、医学科の定員減に舵を切ろうとしています。



文部科学省はその後の、全国81大学の医学部医学科の入試を対象に実施した調査では、東京医科大の他、少なくとも6大学で「不適切な入試の疑いが高い」と明らかにしました。

国や厚生労働省が「医師の働き方改革」をいうなら、根本原因としての深刻な医師不足を認めて、医師増員の立場に改めて立つべきです。また、妊娠・出産でキャリアを中断する可能性のある女性医師が活躍できるような労働環境を整え、女性医師を増やすことは、すべての医師が働きやすい環境につながります。



みなさんの声をお聞かせください！

Road to Doctor　Vol.100（8・9月合併号）の感想

- 各地でいろいろな体験会があってたくさんの人が参加してるんだなとわかりました。訪問診療では実際の状況を間近で感じられる良い体験だなと思いました。（LAVENDER）
- Vol100達成おめでとうございます。先月7月のRoadtoDoctorで、初めて感想を書かせていただきました。自分の感想が掲載されているを見て、嬉しくなりました。これからも頑張って下さい。（U・T）
- RoadtoDoctor100号おめでとうございます。いつも刺激をいただきつつ、手紙も嬉しく読ませていただいています。八戸生協診療所では訪問診療を行っているのですね。以前、訪問診療を取り上げた番組を私もみました。家で治療できる事は人によってはとても大きな事のときもありますよね。また365日、24時間体制すごいですね。実際、私も夜中に体調が悪くなった事があるので、特に地域の方であれば安心ですね。（匿名）
- 実際に医師体験をするということができて良かった。改めて医師になろうと決意が固まった。（シェパード）
- 先月送らせていただいたアンケートの質問に関して、お返事頂きありがとうございました。アドバイスをもとに勉強　に励んでいきます。（K. H. ）

青森民医連奨学金制度

民医連

◆医学生奨学金制度

	特別奨学金	一般奨学金
入学金貸与	あり（1年次のみ）	なし
奨学金貸与額	20万円以内／月	10万円以内／月
定員	各学年5名	なし
返還免除の条件	卒業時に返還義務が生じますが青森民医連に勤務すると返還が免除されます	
	貸与期間の1.5倍	貸与期間の1.0倍

青森民医連には「医学生奨学金制度」と「高卒生奨学金制度」の2つの奨学金制度があります。

●医学生奨学金制度（右表上）は、日本全国の医学部（医学科）に在籍する医学生が対象です。返還義務がありますが、卒業後一定期間、青森民医連加盟の医療機関に勤務してもらうことで返還が免除されます。

●高卒生奨学金制度（右表下）は、高校卒業後、医学部（医学科）への合格に向けて勉強している30歳までの方が対象です。貸与期間は3年まで。返還義務がありますが、医学部（医学科）合格後、医学生奨学金制度に移行し、青森民医連加盟の医療機関に勤務すると返還が免除されます。

どちらも時期・学年を問わず随時募集しています。詳細は、下記連絡先まで気軽にお問い合わせください。

◆高卒生奨学金制度

	コース①	コース②
貸与額	10万円／月	20万円／月

青森民医連での各種企画の報告はホームページに詳しく掲載しております。
奨学金制度のお問合わせや病院実習のお申し込みは、
ホームページ内『お問合せ』メールフォームよりご連絡ください。

青森民医連　検索

「青森民医連」で検索！

青森県民主医療機関連合会 医師医学生課（青森民医連 弘前事務所）
〒036-8203 弘前市本町95丸ニビル1F　平日9:00～17:00
お問い合わせメールアドレス：aomin-igakusei@kensei-hp.com
0172-34-5455
http://www.kensei-hp.com